

ニュージーランド

高校留学のススメ



## まずはじめに・・・

多くのイギリス人が移住しているニュージーランドでは、本場のイギリス英語に触れる機会が溢れており、他国と比較した際の物価の安さや治安の良さを考えると、将来、イギリス留学に関心がある人には穴場の国です。

またアメリカ、カナダやオーストラリアに負けず劣らず移民が多く住む国で、多種多様な英語の音に触れ、真の英語耳が養われます。海外生活には付き物のストレスも、ニュージーランドの雄大な自然を目にすればすぐにリフレッシュすることができるのも大きな特徴です。

高校留学を計画するときに、やはり一番気がかりなのは安全面でしょう。

ニュージーランドは世界中で最も治安の良いといわれている国のひとつで、人の優しさでもどの国にも負けることのない国です。

その為、日本からの未成年留学の方も、受け入れ側の優しく暖かい受け入れ体制によって安心して滞在していただけることと思います。

またオークランドは年中を通して気候も穏やかで、とても過ごしやすい場所です。

“帆の街”としても知られているオークランドは、青く輝くワイタテマ湾を中心に栄えており、週末ものんびりとビーチ沿いで過ごしたり、ホームステイの家族とバーベキューをしたり、マーケット散策、動物園、博物館、遊園地などなどお楽しみいただけます。

人と触れ合い、暖かさに触れることのできる、ニュージーランドは今高校留学先として注目を集めています。



高校留学に興味のある方、将来は英語力が必須だとお考えの保護者様、また現在ニュージーランドは留学先として視野に入れられていない方でも、少しニュージーランド高校留学の魅力を感じてみませんか。



# ニュージーランドの教育システム

ニュージーランドでは年齢によって在籍する学年が決まります。日本のように、小学校 6 年、中学校 3 年・・・と分かれておらず、Year1～Year13 という学年の分け方となっております。6 歳から 16 歳までがいわゆる義務教育とされており、通常 19 歳まで(特別な教育が必要な場合は 21 歳まで)学校に在籍することができます。子どもたちは 6 歳の誕生日までに小学校へ入学することが義務付けられているものの、ほとんどの子どもが 5 歳の誕生日から日本の小学校 1 年生にあたる Year1 を開始し、17 歳～18 歳で Year13 の学年に在籍します。12 歳～13 歳から 17 歳～18 歳は Year9～Year13 の年齢にあたり、Secondary Schoolと呼ばれる日本で言う高校に通います。(High School や Grammar、College という呼び方で知られている学校もあります)それぞれの教科ごとにそれぞれの教師のもと授業を受けるため、各教科で教室移動をする、というスタイルです。なお、地域によっては(主に郊外地域)小学校、中学校、高校がひとつの場所にある Area School があります。

## 【一般的な学年の分布】

日本 		ニュージーランド 			
小学 1 年生	6 歳～ 7 歳	Year1	5 歳～6 歳	Primary School (Contributing)	Full Primary School
小学 2 年生	7 歳～ 8 歳	Year2	6 歳～7 歳		
小学 3 年生	8 歳～ 9 歳	Year3	7 歳～8 歳		
小学 4 年生	9 歳～10 歳	Year4	8 歳～9 歳		
小学 5 年生	10 歳～11 歳	Year5	9 歳～10 歳		
小学 6 年生	11 歳～12 歳	Year6	10 歳～11 歳		
中学 1 年生	12 歳～13 歳	Year7	11 歳～12 歳	Intermediate	
中学 2 年生	13 歳～14 歳	Year8	12 歳～13 歳		
中学 3 年生	14 歳～15 歳	Year9	13 歳～14 歳	Secondary School※Year7-13 の Secondary School もあります	
高校 1 年生	15 歳～16 歳	Year10	14 歳～15 歳		
高校 2 年生	16 歳～17 歳	Year11	15 歳～16 歳		NCEA Level1
高校 3 年生	17 歳～18 歳	Year12	16 歳～17 歳	NCEA Level2	
		Year13	17 歳～18 歳	NCEA Level3⇒詳細は”NCEA とは”参照	

## 日本の教育との違い

まず、ニュージーランドの学校には日本で言ういわゆる入学式や卒業式がありません。また、履修する科目によってクラスが異なる為、授業ごとに合わせる顔ぶれが違うというのも、皆さんが驚かれる一つの要因です。高校の年齢(Year11)以降は、自分の進路に合わせて選択科目を選んでいきます。Year10 までには在籍をしていれば基本的に進級はできますが、Year11 以降は単位を取得しなければ、履修する科目は所属する学年とは異なるレベルの科目を履修することになります。全学年が同じスケジュール、カリキュラムをこなす日本システムとは異なり、各学生が自分の進路を考慮しながら選択教科を決定します。自分の学年が Year12 でも、科目によっては Year11 の教室に移動し、Year11 の学年の生徒と一緒に学習します。例) 英語、数学 は Year 12、科学、化学は Year 11 など Year11 以降になると、学年の終わりに NCEA(National Certificate of Educational Achievement)という全国統一試験を受けます。Level は 1～3 の 3 レベルあり、履修している科目の試験を受けます。通常 Year11 で NCEA Level1、Year12 で NCEA Level2、Year13 で NCEA Level3 を受験します。現地の高校生に比べ、『英語力』という面で大きなハンデがある留学生にとって、単位を取るといことは容易なことではありません。日本ではもちろんのこと、ニュージーランドに移動してからも、大変な努力が必要となります。ただし、ニュージーランドでは留学生に対しての教育も積極的に行っており、英語を母国語としない生徒さん向けの英語の授業 ESOL クラスが多く的高校で設けられており、英語力が不安な方でも安心して学校生活を送られます。NCEA については後に詳しく説明します。

# ニュージーランドの教育カリキュラム

ニュージーランドでは、下記の5つの主要スキルに重点を置き、生徒の力を伸ばす時間をかけています。

『考える』『言葉やシンボル、テキストを使う』『自己管理』『協調性の育成』『忍耐と貢献』

また、以下の8つの分野に力を注いでいます。

『国語（英語）』『数学・統計学』『美術』『保健・体育』『言語』『理科』『社会』『技術』

Year1～Year10までは下記が基本的に必須科目となります。

『国語(英語)』『数学(算数)』『美術』『理科』『保健・体育』『技術』『社会』

上記に加え留学生はESOL(第二言語としての英語)を学ぶことになります。

また、高校(Secondary School)では、下記の選択科目を選ぶことができます。ただし、学校によっては実施していない科目もあります。

会計学、農学・園芸学、美術史、生物学、化学、古典文学、ダンス、劇、経済、地理、グラフィック、歴史、メディア学、音楽、自然科学、ビジュアルアート、ホスピタリティ、ツーリズム、他言語(日本語含む)

個性と興味を伸ばし自己を確立する教育カリキュラムが組まれていることがお分かりいただけたかと思います。

## ニュージーランドの学期

ニュージーランドの学校は4学期制で、毎年下記のようにスケジュールが組まれています。

ターム1:1月終わり～4月中旬

ターム2:4月下旬～7月初め

ターム3:7月中旬～9月終わり

ターム4:10月中旬～12月中旬

(高校は12月初めまで)

ターム間に約2週間の休みがあります。  
土日祝日もお休みです。

### 【参考資料】

#### 2013年度 高校ターム

ターム1:1月28日-2月7日～4月19日

ターム2:5月6日～7月12日

ターム3:7月29日～9月27日

ターム4:10月14日～12月18日

#### 2014年度 高校ターム

ターム1:1月27日-2月7日～4月17日

ターム2:5月5日～7月4日

ターム3:7月21日～9月26日

ターム4:10月13日～12月16日

#### 2015年度 高校ターム

ターム1:2月1日-2月5日～4月2日

ターム2:4月20日～7月3日

ターム3:7月20日～9月25日

ターム4:10月12日～12月15日

#### 2015年度 高校ターム

ターム1:2月1日-2月5日～4月15日

ターム2:5月2日～7月8日

ターム3:7月25日～9月23日

ターム4:10月10日～12月15日

# NCEA とは

NCEA とは、National Certificate of Educational Achievement の略で、ニュージーランド政府の一つの機関、New Zealand Qualification Authority (NZQA) (ニュージーランド資格審査評議会)が発行している、高校生の国内資格です。ニュージーランドの大学入学資格、またその他多くの高等機関への入学条件として採用されています。

下記が各 Level における認定条件となります。

## **NCEA Level 1**

英語科目及び数学科目が必ず含まれていること。

Level1 以上の科目で 80 単位以上取得していること。

## **NCEA Level 2**

Level2 以上の科目で 60 単位以上取得していること。

+Level1,2,3 の科目で 20 単位以上取得していること。

## **NCEA Level 3**

Level3 以上の科目で 60 単位以上取得していること。

+Level2 以上の科目で 20 単位以上取得していること。

※上記規定は変更になることがあります

上記単位を取得するには主に二つの基準に分かれています。一つは学校の先生の判断による学内評価、もう一つは学年末に行われる国内統一試験による学外評価です。学校内での課題をこなし学校内のテストを頑張るだけでなく、学年末の国内統一試験でも良評価を得なければ NCEA 資格を取得することにつながりません。



# 進学について

ニュージーランドの高校を終了後は、個々の目標によってたどる進路が大きく異なります。日本人留学生の場合、大まかに①日本帰国後、日本の大学に進学 ②ニュージーランドに残り現地の高等機関へ進学 ③他国の高等機関へ進学 の3通りに分かれます。その中でも①と②に分かれるパターンが多く、また②ニュージーランドの高等機関にも大学、専門学校(ポリテクニク)など進学先は様々です。ここで注意していただきたいことは、ニュージーランドは日本のように、『高校卒業』という概念ではなく、高校を去る、“Leave”と言います。Year13 まで学校に在籍したからと言って、ニュージーランドの大学入学資格を得ることができるとは限りません。大学進学希望でない生徒は Year12 で高校を去り、就職や専門学校への道へと進む場合もあります。大学進学希望の生徒は Year13 で大学入学規定の単位を取る為に勉学に励みます。

ニュージーランドへの留学を決定する時点で、絶対的な進路を決める必要はありませんが、ある程度将来何を学びたいのか、進学先の高等教育機関は何に絞るのか、日本への帰国志望か、他国への進学希望か、など目標を設定しておくことにより、高校で最低限取得しなければならない単位が分かり、気持ちにも余裕ができるため、勉学にも取り組み易いでしょう。下記に、それぞれの進学先に応じた概要を説明します。

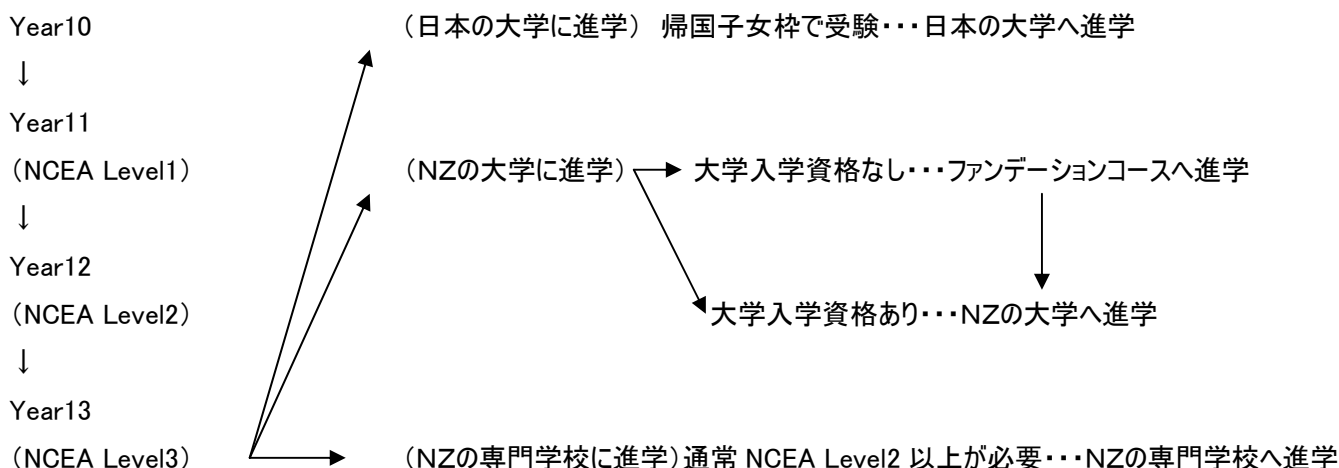
## 【①日本帰国後、日本の大学に進学する場合】

日本帰国後、日本の大学に進学を希望する場合は、帰国子女枠で受験する方が多いです。帰国子女枠の募集要項および審査はその大学、学部・学科によっても異なりますが、小論文と面接を組み込んでいるところが多いです。また、帰国子女枠で受験するための条件として(海外の)高校に2年間以上在籍していること、という期間を設定している大学も多く、日本の高校を中退して途中入学をされた方はその条件に満たない場合があります。近年は帰国子女枠の条件がだんだんと厳しくなっており、下記に説明する「ニュージーランドの大学入学資格を有している」ことを条件としている大学もあるようです。よって日本の大学に進学をご希望の場合は、あらかじめ志望大学に問い合わせを行い、事前調査をすることも大切です。

## 【②ニュージーランドに残り、現地の高等機関へ進学する場合】

ニュージーランドの大学へ進学するためには、「大学入学資格」を取得しなければなりません。通常、日本の大学入学のように入学試験を受験するわけではありませんので、一見簡単なようですが、この大学入学資格を得るためにはニュージーランドの高校で、好成績をおさめるだけでなく、規定の単位を取得し、且つ英語を母国語としない生徒には大学の講義や課題・試験に対応できる程度の英語力証明(IELTS 等)がなければなりませんので、普段からの努力がとても大切になります。勿論、英語面で苦勞をする留学生にとって、この「大学入学資格」取得は高さ壁となります。よって、ニュージーランドの大学に進学を希望されている場合は、ファンデーションコースという大学入学準備コースに進学し、大学に入学する為の基礎学力を磨く方が大半を占めます。

### 《参考:進路の例》





《参考:ニュージーランドの大学入学資格を得るためには》※今後変更の可能性がります

□NCEA Level3 以上の指定教科(Approved subjects)を 42 単位以上。

その中には下記が含まれていることが条件

- ・ 1つの指定教科で 14 単位
- ・ 上記の指定教科以外からの指定教科で 14 単位
- ・ 指定教科を含むその他の 1 もしくは 2 つの教科から 14 単位

□NCEA Level2 以上の読み書き(Literacy)科目を 8 単位以上。

その中には下記が含まれていることが条件

- ・ リーディング教科で 4 単位
- ・ ライティング教科で 4 単位

※ここで言う読み書き科目とは英語もしくはマオリ語のことです。

□NCEA Level1 以上の数学(Numeracy)科目を 14 単位以上

その中には下記が含まれていることが条件

- ・ 数学もしくは統計学や確率の単位

また、高等教育機関には大学の他、私立や国立の専門学校(ポリテクニク)があり、ビジネスやツーリズム・IT・看護・アートやデザインなど実践な技術教育が行われています。これら専門学校によっては学士号(Bachelor Degree)を取得できるところもあり、国立の専門学校はニュージーランド全土に約 20 校あります。大学に比べると、入学基準がやや易しい学校もあり、就職に有利な実務的なことを学べるとあって、多くの学生が進学先として希望しています。

海外へ進学のパターンは各国の基準がそれぞれ違いますため、その都度お問い合わせ下さい。



# 高校留学のパターン

実際に留学をする場合、どのようなパターンがあるのでしょうか？いくつか生徒さんのタイプ別にモデルパターンをご案内いたします。

## パターンA: 夏休み・春休み短期留学で下見留学

一人で海外なんて行ったことがないし成功するかどうか不安、ニュージーランドにするか他国にするか迷い中、ニュージーランドがどのようなところか予め知っておきたい、という方にお勧めのパターンです。

時期	内容
中学2年生 8月～12月まで	高校留学を思い立つ。短期留学のお申し込み
中学3年生になる前の3月	ニュージーランドへ短期留学 期間:2週間 プラン①語学学校2週間、ホームステイ2週間 プラン②語学学校1週間、高校下見見学1週間、ホームステイ2週間
帰国後	高校留学に向け、情報収集開始
中学3年生 8月頃	高校留学のお申し込み→パターンBへ もしくは パターンCへ

## パターンB: 短期留学(パターンAなしで)語学留学後、高校へ進学

ニュージーランドの高校へ進学することは決めているけれど英語力には自信がない、もしくはしっかり土台(英語力)を築いて高校へ進学したいという方にお勧めのパターンです。

時期	内容
中学3年生 8月頃まで	高校留学を思い立つ。情報収集開始
中学3年生 12月頃まで	語学留学のお申し込み ※お申し込み期間は要相談
中学3年生 1月頃	学生ビザ申請手続き
中学卒業後の4月	ニュージーランドへ語学留学 例) 語学学校 36週間、ホームステイ 36週間
語学留学開始後	高校進学に向け、情報収集開始
語学学校終了前の11月頃迄	進学希望の高校へ入学手続き
語学学校終了の12月頃	学生ビザ申請手続き ※語学学校終了後日本に一時帰国し、学生ビザ申請も可能
次年度の2月(ターム1)	高校へ進学 ※学年は誕生日や英語力により異なる

## パターンC: 短期留学や語学留学(パターンA・Bなしで)そのまま高校へ進学

幼い頃から英語に触れる機会があり、英語力には自信がある、できるだけ早くニュージーランドの高校に進学したい、という方にお勧めのパターンです。

時期	内容
中学3年生8月頃	高校留学を思い立ち、情報収集開始後、高校留学のお申し込み
中学3年生11月頃まで	進学希望の高校へ入学手続き
中学3年生12月頃もしくは1月	学生ビザ申請手続き
中学3年生の2月(ターム1) もしくは中学卒業後の5月 (ターム2)	ニュージーランドへ高校留学 ※学年は誕生日や英語力により異なる



# 高校留学費用

実は皆さんが一番気になる費用。実際にどのくらい費用の準備が必要か、先にご説明した高校留学のパターンに沿って詳しくご案内いたします。なお、下記には航空券代、現地での交通費や交際費等の雑費、保険代、サポート代は含まれませんので詳しくはお問い合わせ下さい。

## パターンA: 夏休み・春休み短期留学で下見留学

### 【プラン①語学学校 2 週間、ホームステイ 2 週間のお見積り例】

入学金: NZ\$200

授業料: NZ\$780(週 NZ\$390 × 2週)

教材費: NZ\$100

宿泊手配費: NZ\$250

ホームステイ宿泊費: NZ\$600(週 NZ\$300 × 2 週)

空港送迎(往復): NZ\$300

**合計: NZ\$2,230**

### 【プラン②語学学校 1 週間、高校下見見学 1 週間、ホームステイ 2 週間】

入学金: NZ\$200

授業料: NZ\$390(週 NZ\$390 × 1 週)

教材費: NZ\$100

宿泊手配費: NZ\$250

ホームステイ宿泊費: NZ\$600(週 NZ\$300 × 2 週)

空港送迎(往復): NZ\$300

高校下見見学ツアー(3 校まで): NZ\$600

**合計: NZ\$2,440**

## パターンB: 短期留学(パターンAなしで)語学留学後、高校へ進学

### 【語学学校 36 週間、ホームステイ 36 週間のお見積り例】

入学金: NZ\$200

授業料: NZ\$14,040(週 NZ\$390 × 36 週)

教材費: NZ\$100

宿泊手配費: NZ\$250

ホームステイ宿泊費: NZ\$10,800(週 NZ\$300 × 36 週)

**合計: NZ\$25,390**

## パターンC:短期留学や語学留学(パターンA・Bなしで)そのまま高校へ進学

### 【高校1年間、ホームステイ48週間のお見積り例】

入学金: NZ\$1,500

授業料: NZ\$15,000

教材費・制服代: NZ\$500

宿泊手配費: NZ\$250

ホームステイ宿泊費: NZ\$14,400(週 NZ\$300 × 48 週)

**合計: NZ\$31,650**

### -その他必要な費用について-

\*航空券(往復): 航空会社により異なる

\*NCEA 試験受験費(高校): 約 NZ\$380 年度によって異なる

\*学生ビザ申請料: NZ\$250 (変更の可能性あり。日本国籍の場合、日本での学生ビザ申請料は無料)

\*学生ビザ用健康診断料: 約 NZ\$75~380 ※現地で健康診断をする場合(ほとんどがレントゲン検査のみでOK)

\*お小遣いや生活費: 約 NZ\$250-300/月

\*海外旅行傷害保険: 保険会社により異なる

\*サポート代: 期間により異なる



空港送迎(年間2往復まで)	送迎会社の日本語スタッフによるお出迎え、お見送りです。チェックイン時もアシストします
到着後確認	到着後、無事に到着された旨とその様子を日本のご家族へお伝えします ※日本オフィス経由
到着時オリエンテーション	到着日もしくはその翌営業日に、これからニュージーランドで過ごすにあたっての心構えをお伝えします
オリエンテーションブックの配布	オリエンテーション時に配付します
バスの乗り方、ホームステイ先での過ごし方伝授	オークランドシティ内やホームステイ先周辺の地図、バス時刻表をお渡しします
オフィス利用	営業時間内にお気軽にオフィスへお立ち寄りいただき、メンバー専用サロンでゆっくり過ごしていただくことができます
日本語対応インターネット利用	オフィス内のメンバー専用サロンに設置してある日本語対応パソコンにてインターネットをご利用いただけます
お飲み物サービス	オフィス内のメンバー専用サロンにあるお飲み物(お水、コーヒー等)はセルフサービスです
日本語書籍貸出サービス	オフィス内のメンバー専用サロンでは日本語書籍の貸し出しも行っております
荷物一時預かりサービス	スーツケース、ダンボールなどお荷物を現地オフィスにてお預かりします(1人1つ迄・1ヶ月越えるとNZ\$5/週)、ご旅行や引越しの際にご利用ください
郵便物転送・保管サービス	お手紙等の郵便物、小包などのお荷物をオフィス宛てにお送りいただけます(転送はNZ国内限定、荷物は転送不可)
24時間緊急サポート	万が一の怪我や病気の際に営業時間外でも対応できる緊急連絡先をお伝えします(現地スタッフが迎えにあがり、救急車を呼ぶなどの場合は別途費用がかかります)
生活カウンセリング	何かお困りのことやご相談ごとをお受けします、日本語でご案内しますのでご安心いただけます
携帯電話購入方法伝授	携帯電話のレンタルおよびプリペイド式携帯電話の購入場所や購入方法をお伝えします ※携帯レンタルにはパスポート、クレジットカードが必要です
銀行口座開設同行 (12週間以上滞在の希望者のみ)	銀行口座開設のための予約、開設時の同行を行います、ATMの使い方も伝授します 開設に必要なもの:パスポート、ビザ、日本の住所を証明するもの(*1) *1)NZや日本政府、公共機関が発行した住所証明、NZQA認定学校から発行された日本の住所が記載された入学許可書など
両替案内(2回まで)	日本円からニュージーランドドルに換金する際、現地オフィス最寄の両替所までお連れし両替をサポートいたします
在留届のアドバイス	在留届の出し方をお教えます
日本のご家族様へのレポート作成 もしくはE-mailでのご連絡	学校やホームステイ先での様子を日本のご家族へご報告します ※日本オフィス経由
生徒様への定期連絡	お電話にて様子を伺い、何かあれば日本のご家族への連絡をいたします ※日本オフィス経由
病院付き添いサービス	病院への予約、(弊社営業時間内の)付き添い、通訳を行います
進学カウンセリング	将来、ニュージーランドで進学をお考えの方への進学カウンセリングです (NZの教育システム等情報提供)
学校からの呼び出し時の対応	学校から必要とされる呼び出しの際はスタッフが対応します
学校の面談時保護者としての出席	定期的に学校で面談が開催される場合、現地スタッフが保護者の代わりに出席します
学校発行の成績・各種書類の送付	基本的にE-mail添付でお送りしますが、必要時には日本への郵送を行います。
学校発行の成績・各種書類の解説	内容で不明点があれば解説および翻訳を行います
願書提出・合否連絡・入学手続き	ご希望の高校への願書取り寄せから入学手続きまで全ての手配を代行します





到着後確認	到着後、無事に到着された旨とその様子を日本のご家族へお伝えします ※日本オフィス経由
到着時オリエンテーション	到着日もしくはその翌営業日に、これからニュージーランドで過ごすにあたっての心構えをお伝えします
オリエンテーションブックの配布	オリエンテーション時に配付します
バスの乗り方、ホームステイ先での過ごし方伝授	オークランドシティ内やホームステイ先周辺の地図、バス時刻表をお渡しします
オフィス利用	営業時間内にお気軽にオフィスへお立ち寄りいただき、メンバー専用サロンでゆっくり過ごしていただくことができます
日本語対応インターネット利用	オフィス内のメンバー専用サロンに設置してある日本語対応パソコンにてインターネットをご利用いただけます
お飲み物サービス	オフィス内のメンバー専用サロンにあるお飲み物(お水、コーヒー等)はセルフサービスです
日本語書籍貸出サービス	オフィス内のメンバー専用サロンでは日本語書籍の貸し出しも行っております
荷物一時預かりサービス	スーツケース、ダンボールなどお荷物を現地オフィスにてお預かりします(1人1つ迄・1ヶ月越えるとNZ\$5/週)、ご旅行や引越しの際にご利用ください
郵便物転送・保管サービス	お手紙等の郵便物、小包などのお荷物をオフィス宛てにお送りいただけます(転送はNZ国内限定、荷物は転送不可)
24時間緊急サポート	万が一の怪我や病気の際に営業時間外でも対応できる緊急連絡先をお伝えします(現地スタッフがお迎えにあがったり、救急車を呼ぶなどの場合は別途費用がかかります)
生活カウンセリング	何かお困りのことやご相談ごとをお受けします、日本語でご案内しますのでご安心いただけます
携帯電話購入方法伝授	携帯電話のレンタルおよびプリペイド式携帯電話の購入場所や購入方法をお伝えします ※携帯レンタルにはパスポート、クレジットカードが必要です
銀行口座開設同行 (12週間以上滞在の希望者のみ)	銀行口座開設のための予約、開設時の同行を行います、ATMの使い方も伝授します 開設に必要なもの:パスポート、ビザ、日本の住所を証明するもの(*1) *1)NZや日本政府、公共機関が発行した住所証明、NZQA認定学校から発行された日本の住所が記載された入学許可書など
両替案内(2回まで)	日本円からニュージーランドドルに換金する際、現地オフィス最寄の両替所までお連れし両替をサポートいたします
在留届のアドバイス	在留届の出し方をお教えます
日本のご家族様へのレポート作成 もしくはE-mailでのご連絡	学校やホームステイ先での様子を日本のご家族へご報告します ※日本オフィス経由
生徒様への定期連絡	お電話にて様子を伺い、何かあれば日本のご家族への連絡をいたします ※日本オフィス経由
病院付き添いサービス	病院への予約、(弊社営業時間内の)付き添い、通訳を行います
進学カウンセリング	将来、ニュージーランドで進学をお考えの方への進学カウンセリングです (NZの教育システム等情報提供)
初日学校同行(1校のみ)	学校初日同行し、できるだけ早く学校に馴染めるよう通訳およびサポートをいたします